

---

囃む

そらみみ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】  
噛む

【Nコード】  
N9876C

【作者名】  
そらみみ

【あらすじ】  
僕は噛む。彼女の腕や肩を噛む。そんな男のお話。

君の腕を噛むと、やや左上の歯が内側にずれている僕の歯形がそこに残った。

何故、噛むのか僕にもよくわからない。

ただ腕や、肩や、首筋を噛む。

孤独なんて言葉があるが今ひとつ理解できない。

大勢でいるよりも、一人でいる事が好きなんだ。

でも、君が見ていてくれてないと、なんだか気持ちがモヤモヤとする。

いつも側にいなくてもいいけれど、見ていてくれてないと僕はきつと消えてしまう。

これが孤独だというのなら、きつとそういう事だろう。

「痛いよ。」

君は嫌がるでもなく、どちらかというと噛まれているのが嬉しそうに、腕を差し出したまま言う。

そんな君の首を、僕はちよつと絞めたくなって首筋に両手をあてがう。

少しずつ、少しずつ力を入れていっても、君は何を言うでもなく優しい微笑みを浮かべていた。

「殺しちゃうかも。」

「いいよ。」

そんな事、出来やしないけど。

僕が君じゃないように、君も僕じゃない。

君の事が好きだけど、そしてきつと君も僕が好きなんだろうけど、決して解り合えやしない。

だって二人は他人だから。

この皮膚を一枚破って、グチャグチャに混ざり合えば、ちょっとは安心出来るかもなんて、

そんな事考えてた。

噛みちぎって、食べてしまえば不安が治まるかもなんてそんな事考えてた。

汗ばむ君を、碎いてしまおうと思いつきり抱きしめても、混ざり合えない。

幾度肌を重ねても、僕は僕以外を理解できやしない。

いや、自分自身を理解出来ているのかも甚だ怪しいものなんだけど。

君がいなけりゃこんな不安も無かっただろうけど、君がいたから幸せを感じていたんだ。

自分の事しか考えて無くて、君にずいぶん酷い事もしたけど

好きだよ。

**（後書き）**

そんな事思われても困るとか  
気持ち悪いとか却下

させてください。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9876c/>

---

囃む

2010年10月20日13時49分発行